

環境経営レポート

第16版作成 2024年8月8日

対象期間 2023年5月～2024年4月

株式会社 川上建設

《 目 次 》	1
1. 事業概要	2
1) 事業者名及び代表者	2
2) 所在地	2
3) 環境管理責任者	2
4) 連絡先	2
5) 事業活動	2
6) 対象範囲	2
7) 事業規模	2
8) 推進組織図	2
2. 環境経営方針	3
3. 環境経営目標	4
4. 環境経営目標の実績	4
5. 環境経営計画と取組結果、及びその評価	5
6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	6
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	7
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	8
9. エネルギー消費量とCO2発生量の推移	8

1. 事業概要

1) 事業者名及び代表者名

株式会社 川上建設
代表取締役社長 椎葉 眞行

2) 所在地

本社・・・〒883-0402 宮崎県 東臼杵郡 椎葉村大字大河内702
土場・・・〒883-0402 宮崎県 東臼杵郡 椎葉村大字大河内708

3) 環境管理責任者

EA-21責任者 : 椎葉 眞行

4) 連絡先

連絡担当者 : 椎葉英子 (総務部)
TEL : 0983-38-1053
FAX : 0983-38-1406
E-mail: kawakami.soumu@dolphin.ocn.ne.jp

5) 事業活動の内容

建設業 (土木一式工事、舗装工事、法面工事、とび・土工・コンクリート工事)

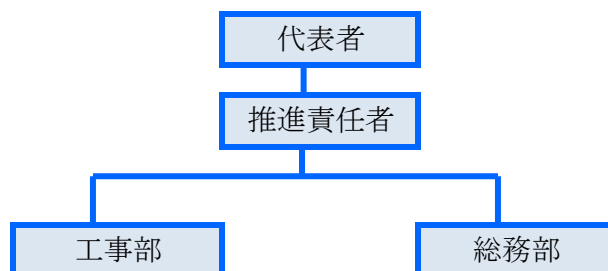
6) 対象範囲

- ・認証登録範囲 全組織・全活動
- 組織..... 本社、土場
- 活動..... 建設業 (土木一式工事、舗装工事、法面工事、とび・土工・コンクリート工事)
- ・対象期間..... 2023年5月～2024年4月

7) 事業規模

項目	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
工事件数	8	8	9	9	9	14	12
従業員数	18	18	18	18	17	16	16
床面積(㎡)	191	191	191	191	191	191	191
資機材置場面積(㎡)	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300

8) 推進組織図



環境経営方針

基本理念

当社は、人と環境に優しい技術を通して社会に貢献し、自主的・継続的に地球環境保全に努める為、環境マネジメントシステムを構築して運用する。

基本方針

1. 当社は、建設事業に於いて環境に与える影響を的確に捉え、環境負荷を低減するため環境経営システムを構築し、その運用と継続的改善を図り、地域に貢献する企業を目指します。
2. 当社は土木工事業に於いて、環境に与える影響を削減するため以下を重点項目とし、環境経営目標及び環境経営活動計画を定め、環境負荷の削減に努めます。
 - ① 電気使用量・化石燃料使用量の節減による二酸化炭素排出量の削減します。
 - ② 建設現場や事業所から排出される廃棄物の削減と再資源化推進します。
 - ③ 節水意識の高揚を図る
3. 関連する環境の法規制を遵守するとともに、行政機関・地域等の要請に積極的に協力します。
4. 新技術活用や創意工夫により、安全且つ効率化及び環境に配慮した施工に努めます。
5. 環境保全のためボランティアへの積極参画や地域での社会貢献活動に努めます。
6. 従業員が環境に関する基本的な考え方を理解するよう環境経営方針を周知し、社内広報活動などを実施して、環境に関する意識の高揚に努めます。
7. 環境経営方針は環境経営レポートで、社内外にも公表します。

制定：2010年5月10日
改定：2012年5月 2日
改定：2019年5月 8日
改定：2023年5月 1日
株式会社 川上建設
代表取締役 椎葉眞行

3. 環境経営目標

取組み項目	実施区	第五次中期計画				
		基準値 (2018年5月～ 2021年4月 平均)	2021年度 (2021年5月～ 2022年4月)	2022年度 (2022年5月～ 2023年4月)	2023年度 (2023年5月～ 2024年4月)	
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	全社	222,823	220,625	218,427	216,228	
	①電力使用量の削減 (kWh)		基準値比 0.5%削減	基準値比 1.0%削減	基準値比 1.5%削減	
		事務所	17,221	17,135	17,049	16,963
	②ガソリン使用量の削減 (L)		基準値比 1%削減	基準値比 2.0%削減	基準値比 3.0%削減	
		事務所	14,864	14,715	14,567	14,418
		現場	7,260	7,187	7,115	7,042
	全社	22,124	21,903	21,682	21,460	
③軽油使用量の削減 (L)		基準値比 1%削減	基準値比 2.0%削減	基準値比 3.0%削減		
	現場	64,155	63,513	62,872	62,230	
2 削減・廃棄物	①一般廃棄物最終処分量の削減 (kg)		基準値比 0.5%削減	基準値比 1.0%削減	基準値比 1.5%削減	
	全社	15.0	14.9	14.9	14.8	
②建設副産物の再資源化率向上 (%)	現場	95%以上	再資源化率 95%以上			
3. 水資源使用量の削減 (m ³)	全社	山水使用のため計量していません	節水の励行			
4. 環境ボランティア活動(回数)	全社	2回／年	2回/年			
5. 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上 (環境配慮型施工の推進)	現場	環境配慮型施工の推進	当該環境経営計画の順守			

＊水資源は山水を使用し計量はしていないため、全社員に『節水の励行』を徹底することを目標としています。
＊建設副産物の再資源化率=(再資源+再利用+熱回収)÷総排出量×100
＊自らが施工する土木建築物の環境性能の向上は、環境経営計画を遵守することを目標としています。

4. 環境経営目標の実績

取組み項目	実施区	目標値	実績	達成率	前年実績比 増減	評価	
		期間；2023年5月～2024年4月					
1. 二酸化炭素排出量削減 (kg-CO2)	全社	216,228	205,484	105.2%	+68,863	△	
	①電気使用量の削減 (kWh)	事務所	16,963	15,684	108.2%	+6,474	△
	②ガソリン使用量の削減 (L)	事務所	14,418	15,232	94.7%	-142	△
		現場	7,042	1,857	379.3%	-2354	○
		全社	21,460	17,089	125.6%	-2,496	○
	③軽油使用量の削減 (L)	現場	62,230	62,169	100.1%	+28,065	○
2 の 削減 廃棄物	①一般廃棄物の削減 (kg)	全社	14.8	14.8	100.0%	-1.8	○
	②建設副産物の再資源化率 向上 (%)	現場	95.0%	100% (103.83%)	105.3%	2.4%	○
3. 水資源使用量の削減 (m³)	全社	節水の励行	節水の励行	—	—	○	
4. 環境ボランティア活動(回数)	全社	2回以上/年	2	100.0%	±0	○	
5. 自らが施工する土木建築物の環境 性能の向上 (環境配慮型施工の推進)		環境経営計画の 遵守	遵守しています	—	—	○	

＊事務所のLPGや灯油消費を含んだ全社の二酸化炭素総排出量は、211,069.5 kg-CO₂です。
＊購入電力の二酸化炭素排出係数は、令和2年9月九州電力公表の調整後排出係数0.347を使用しています。
＊△は目標未達成だが、前年実績よりも削減できた。又は、目標達成だが実績は前年より増加した場合の評価。

5. 環境経営計画と取組み結果、及びその評価

取組項目	活動内容	責任者	取組み状況	評価
・電気使用量の削減	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底	総務部門	不在時や昼休み時の消灯、事務所のエアコンのフィルター清掃、熱中症などに気を付けながらエアコンの使用を極力控える等、徹底した節電を図った結果、108.2%の目標達成となった。	○
	②空調温度管理（設定温度遵守・・・夏28℃・冬24℃程度）			○
	③蛍光灯やエアコンフィルターの定期清掃			○
・ガソリン使用量の削減	①エコドライブの徹底（アイドリングストップなど）	全部門	昨年の台風被害で道路が長期間遮断された為、熊本県を迂回して役場や協会へ行くことが多く、事務所のガソリン使用量が増大した。現場は椎葉村内の近場の災害復旧工事の為、現場のガソリンは減少した。	○
	②現場への相乗り通勤の推進			○
・軽油使用量の削減	①エコドライブの徹底（アイドリングストップなど）	工事部門	今期は台風災害復旧の大型工事もあったが、大型重機の稼働は前年並みであった事と、重機のフルアクセル抑制運動(アクセル8割運動)等を徹底して実施している事などから軽油消費量は、前年実績よりも大幅に増加したが、目標達成率は100.1%となった。今後も、重機のフルアクセル抑制や不要な物を積んだままの走行はしないなどに取組、省エネを図る。又、低燃費重機のレンタルは継続して取組む。	○
	②重機の定期点検整備の実施			○
	③重機はできるだけフルパワー操作をしない（アクセル8割運動の展開）			○
	④不要な物を積んだまま走行しない			○
・一般廃棄物の削減	①廃棄物の分別計量と記録	総務部門	廃棄紙がでないように、内部書類などではできるだけパソコン画面で確認し、コピーしないようにペーパーレスを徹底している。又、徹底した資源ゴミの分別で、最終処分量の削減に取組んだ結果、100.0%の目標達成となった。	○
	②資材梱包材の業者持帰り依頼			○
	③事務用品(コピー用紙など)の節減			○
・建設副産物の廃棄方法の遵守	①リサイクルの為の分別をする	工事部門	大型台風の災害復旧で擁壁解体などのコンクリート塊と、流木・倒木の処理が多く発生して、すべてが再資源化され、再資源化率は100.0%となった。	○
	②残余材発生防止の為の発注時の在庫確認			○
	③廃棄物はリサイクル業者へ処理を依頼する			○
・水資源使用量の削減	①節水意識の高揚	総務部門	現場では、雨水利用なども実施して水資源の大切さの意識高揚を図っている。次年度も意識の継続を図っていく。	○
	②洗車時のこまめな蛇口開閉			○
・環境保全の取組推進	①地域ボランティア活動への参加	総務部門	第18回「水と緑の森林づくり」県民ボランティアの集いで、下草刈り作業など、森林づくりの活動や、土木の日に学校の花壇鉄橋などの地域貢献活動を行った。	○
・自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善(環境配慮型施工の推進)	①環境配慮型材料使用の促進	工事部門	環境配慮型重機は、NETIS登録型や超低騒音、低燃費等の重機をレンタルするようにしている。天候に応じた工事の推進や、出来る限りの二次製品使用、新技術活用等で工期短縮に取り組んでいるが、工事場所や天候に左右されることが多い。重機等は現場規模に応じた機種を選定している。	○
	②環境配慮型機材機器の使用促進			○
	③創意工夫による工期短縮の推進			○
	④現場状況に応じた重機・機器の選定			○

6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画

取組項目	次年度の目標 (2024年度)	活動内容
・二酸化炭素排出量	170,949 kg-CO2以内	省エネ活動の推進
・電気使用量の削減	消費量 12,385 kWh (事務所)	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底 ②空調温度管理 (設定温度遵守・夏28℃程度、冬24℃程度) ③蛍光灯やエアコンフィルターの定期清掃
・ガソリン使用量の削減	消費量 15,150 L(事務所) 3,004 L(現場)	①エコドライブの徹底(アイドリングストップなど) ②急停車防止、早めのアクセルオフ運転
・軽油使用量の削減	消費量 47,655 L(現場)	①エコドライブの徹底(アイドリングストップなど) ②重機の定期点検整備の実施 ③重機はできるだけフルパワー操作をしない (アクセル8割運動の展開) ④不要な物を積んだまま走行しない
・一般廃棄物最終 処分量の削減	15.6kg	①廃棄物の分別計量と記録 ②資材梱包材の業者持帰り依頼 ③事務用品(コピー用紙など)の節減
・建設副産物の廃棄 方法の遵守	再資源化率 95%以上	①リサイクルの為の分別をする ②残余材発生防止の為の発注時の在庫確認 ③廃棄物はリサイクル業者へ処理依頼する
・水資源使用量の削減	節水意識高揚	①節水意識の高揚 ②洗車時のこまめな蛇口開閉
・環境保全の取組推進	参加 2回/年以上	①地域ボランティア活動参加
・自らが施工する土木建 築物の環境性能の向上 及びサービスの改善(環境 配慮型施工の推進)	環境経営計画の 遵守	①環境配慮型材料使用の促進 ②環境配慮型機材機器の使用促進 ③創意工夫による工期短縮 ④現場状況に応じた重機・機器の選定

環境活動内容は前年度の活動を継続するが、社会や会社の状況の変化などがあった場合は、速やかに見直す。又、他に効果的・効率的な活動がある場合は、随時見直す事とする。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認、及び評価の結果並びに違反・訴訟の有無

当社の事業に係る環境関連法規は担当者がNetや協会情報などで確認しています。

尚、関連法規制の遵守状況確認を実施した結果、違反はありませんでした。

また、関係当局からの指摘及び地域住民からのクレームや訴訟もありませんでした。

又、現場での遵守状況は、安全パトロール中や安全会議時などで確認しています

当社の事業に係る主な環境関連法規と遵守状況は以下の通りです。

主な法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源使用	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (重機搭載のエアコンを含む)	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	該当工事なし
浄化槽法	・年1回の清掃と年3回の保守点検の実施 ・年1回の法定点検の実施	遵守

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21環境マネジメントシステムを2009年5月から運用して15年目の取組ですが、マン初化に陥る事もなく、徹底した省エネ・省資源活動を継続しています。

ただ、今年度も前年9月の大型台風で地域の生活道路や通信網が約9ヶ月間遮断され、隣県へ迂回しなければならぬ程に被害が大きかった地域の災害復旧に全社を挙げて取り組んでいる最中です。

この為、今年度も環境負荷の自己チェックの結果は、設定している目標の実績値としては参考値となると思われます。

ただ、事業活動から発生する環境負荷の削減のために14年間取組んで来て、自分達で経験した結果を基に環境活動の内容を設定して活動し、不具合があれば改善するなどPDCAサイクルを廻しながら継続的に取組んでいます。

9. エネルギー消費量とCO₂発生量の推移(2011年度～2023年度)

